



2017年3月1日生 牡 鹿毛
父ロードカナロア
母ミスベンバリー(父Montjeu)
馬主/広尾レース(株)
調教師/矢作芳人(栗東)
生産牧場/木村秀則氏
通算成績/27戦7勝(うち海外4戦2勝)
総取得賞金/18億4466万3200円
主な勝ち鞍/23サウジC(沙G1)
22ドバイターフ(UAE-G1)
22中山記念(GII)
21福島記念(GIII)
馬名の由来/かつての地球に存在した唯一の海。父名(海の神)より連想

年代別・性別ランキング

10代と20代から
熱い支持

● 10代……7位	● 60代……41位
● 20代……6位	● 70代……64位
● 30代……11位	● 男性……14位
● 40代……21位	● 女性……14位
● 50代……37位	

Voter's Voice

レースを見て武者震いが起きて、涙が出たのはこの馬だけです(50代・男性)●世界最高の芝ダート二刀流ホース!(30代・男性)●日本でG Iを勝つことはなかったが、出走する度に盛り上がり、記録よりも記憶に残る馬であった(50代・男性)●2022年の天皇賞(秋)で2着。ラストランと言われ心が沈んでいたジャパンカップも最後までハイペースに大逃げして心の中がスッキリしました(10代・男性)

いつ、どこで、どんな相手でも臆することなく逃げの手を打つ

パンサラッサの魅力は、けれん味のない逃げだ。いつでもどこでも、どんな相手でも臆することなく、先手を奪った。

2022年3月、パンサラッサはアラブ首長国連邦に向かった。出走したのは芝1800メートルのドバイターフ。14

頭立ての11番ゲートから飛び出すと、吉田豊騎手は迷わず、パンサラッサを先頭に導いた。最後の直線でも脚色は鈍らない。英国馬ロードノースと日本のヴァンドギャルドが懸命に追い込み、3頭が並んだところがゴールだった。結果はパンサラッサとロードノースが1着同着。初のG I制覇を海外で達成した。2頭からハナ差でヴァンドギャルドが3着になった。

翌年2月、今度はサウジアラビアで快挙を達成する。ダート1800メートルのサウジCに出走。またまた先手を奪い、逃げ切った。当時のレートで約13億円の1着賞金とダートG Iのタイトルを手に入れた。国内でダートを走ったのは師走S(L)1戦のみ。クロフネやアグネスデジタルなど芝とダートの双方でG I勝利を挙げた例は6頭を数える。しかしパンサラッサのように、その偉業をいづれも海外で果たしたのはほかにはいない。

17年3月1日、北海道新ひだか町の木村秀則牧場で生まれた。父ロードカナロア、母ミスベンバリー、母の父は凱旋門賞馬モンジュールという血統だ。栗東トレーニング・センターの矢作芳人厩舎に入った。厩舎の同期生にコントレイルがいた。看板馬コントレイルに隠れた存在ではあったが、パンサラッサも海外で芝、ダート双方のG I制覇という前例のない快挙で続いた。

第

16

位

令和の“大逃亡者”

パンサラッサ

9754 P

NEW